

# 柏樹

題字  
南 勇 会長  
川口市退職校長会  
会報 第16号  
平成30年2月1日

## 快なる感動を求めて

小川吉之丞



70歳で教職生活を終え、小さい時に好きだった絵を始めることにした。

最初は趣味程度だったが、次第に高じて個展から市展へ県展から全国展へと活動の場を広げてきた。いろんな作品や人に接し挑戦しつづけると視野も広がり興味は尽きないものである。

絵画は感動と同時に描こうとする気力があれば年齢は関係ない。昨年の県展も13回目の入選となったが、その入選者の年齢構成を見ると70歳代が最も多く530点のうち227人で、42%を占めている。

因みに最高齢は93歳。最低年齢は15歳。絵を見ただけでは年の差は全く感じられない。頭の中は皆若い。

私は現在7種の美術展に出品。よくもこういう駄作を続けられるかと、自

分ながら飽きれる。時々壁にぶつかり苦悶するが偶然にも気に入った作品が描けたりして快感を覚え、これが病みつきで未だに続けているのである。

昨年、伴侶を亡くし大きな喪失感から一時絵筆を持つ気になれなかったが、絵に没頭しはじめたら少し癒された。その後幸運にも創元展受賞者の特別展に選ばれた時は、絵をやってきてよかったと思うと同時に、快い感動は、私をして生かされている命への感謝の念に変えさせてくれた。

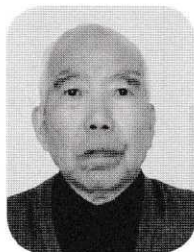
さて、私にはもう一つの趣味としてハーモニカに挑戦。呼吸法によいことや持ち運びに便利でみんな合奏を楽しめることなど利点が沢山。全くの独学でいいかげん。覚えた名曲は100曲。先ずは近所の老人ホーム。これがウケたのが縁となり、いろんな町会や敬老会、各集会、同窓会等と次々に展開。人生一度。何も失うものなし笑われる勇氣も必要と下手ながら達観している。

かくして柏樹会総会の懇親会の締めとして図々しくも登場。皆さんと楽しく、名曲「故郷」を合唱することになった次第である。これまた5年目を迎

える。年々先生方の合唱力もすばらしく、逆にその快なる感動が私に伝わってきて、音楽の力もすごいなと思う。年一度の総会が更に盛り上がり、楽しく生きる感動の場となるよう、その一助となるならば望外の喜びである。

## 生きがいづくり

安部保夫



老人クラブは、全国組織で、生きがいづくり、健康づくり、仲間づくり、地域づくりの4本の

基本理念を掲げている。高齢長寿社会の中で人生の後期をよりよく生きるための理念である。地域の高齢者が生きがいと健康のために、仲間づくりを基礎に、相互に支え合い、楽しくそして社会に貢献する老人クラブづくりをしなければならぬ。

我がクラブ(神根長寿会)の活動の一つに、唱歌をテープ(CD)に合わせ歌う「みんなで歌いましょう!」に取り組んでいる。滑舌や発音・発声に注意して楽しく歌うことを合い言葉に

している。この活動の発表の場として、リリアメインホールで行われる、川口市老人クラブ連合会主催の大演芸大会に出場する機会を得た。専門の指導者も、伴奏者もない中、かなり強引な申込だった。伴奏用のテープは知人に録音をお願いした。各3支部で分かれての練習を重ねた。

そして当日。総勢30名。控室に行く前に並ぶ順番を決めて、リハーサル室で最初で最後の全体練習。いざ本番。皆、緊張の様子で話し声はしない。いざステージへ。伴奏が始まり「故郷」と「紅葉」を無事に歌い終えた。ステージ裏で「やったー」の声。皆の顔は、力を合わせて一つのことをやり遂げた喜びの顔、顔。どこからか「よかったよー」の声に喜びの笑顔、笑顔。

『「柏樹」15号の倉林先生の「生きがい」とは』を読ませていただき、生きがいとは、喜び、靈性の満足、生命の喜びと読み取った。大演芸大会に出場し終えた喜び、満足の笑顔はまさしく生命の喜びであり、それは「生きがい」そのものである。学校で、子どもたちが「できたー、解けたー、書けたー、見つけたー」などの喜びの声をあげた時の満面の笑顔と重なった。

単位老人クラブの会長を務めて3年目。4つの理念の実現に向けて今後も地道な活動に取り組んでいきたい。

# 「ちよつといひ話」

七十、八十 鼻たれ小僧

男盛りは 百から百から

平野 忠 男

タイトルは、百歳を過ぎてなお生涯現役を貫き通した木彫作家、平櫛田中の言葉である。彼が生涯を傾注して制作し続けた工房は、現在、記念美術館として東京小平市玉川上水緑道沿いにある。庭先には、今なお制作途中の大木がゴロゴロ、帰らぬ主を待つかのようになりに横たわっている。

私も生涯現役、健康寿命を伸ばしたいと日常心がけ実践し続けていることがある。それは、「刺激と運動」である。

刺激の第一は、人権擁護委員という重責ある仕事。面接相談・電話相談・人権教室・啓発活動等、法務大臣からの委嘱状を見る毎、刺激は絶大である。

刺激の第二は、川口市福祉センターの絵画教室・絵手紙教室の指導である。毎週、月木の二日、障害者高齢者ほつとする癒しの時間を創出している。

目・手・脳の働きを活性化させるであろう感性を育む作業は、刺激を増大させ、健康寿命伸長の一助となっている。

運動は、ウォーキングの継続である。普段家にいる時は、一日3時間2万歩以上歩くこと、雨の日も続行である。

四国歩き遍路の旅も、昨年で4周年

を終えることができた。一周千四百kmの山あり谷ありの遍路道、朝から30km歩いて到着しない遍路宿、ノスタルジックな気分になりながら黙々と歩く。季節の移ろい、自然の美しさを目に焼きつけ、爽快感を全身に味わいながら、自力で歩ける喜びを満喫する。

四国四県の寺々は、全て海に面した高い山頂に創建されているものが多い。澄んだ空、緑なす山と青い海は、弘法大師「空海」そのものである。白装束菅笠・金剛杖といういでたちで歩くが、白衣の背には「同行二人」と名入れがしてある。一人で歩いても常に弘法大師と二人連れの遍路旅である。

四国の心優しき風習に「お接待」がある。まったく見知らぬ他人に温かい心のこもったもてなし、子どもも大人も道で会えばむこうからの言葉がけ。出会う度に胸にこみ上げるものを感じながら目的地を目指す。「私がお参りに行けないので、かわりに行ってきて下さい。」の「寄託」の心がこもっている。

11月末から10日間、高知県を巡る遍路旅が始まる予定である。今は7080の鼻たれ小僧ですが、私なりの刺激と運動を求め続けます。いつの日か、百歳の男盛りたらん事を夢見て。

七十、八十 鼻たれ娘

女盛りは 百から百から

## 生きがいを求めて

都築 博文

日常生活の中で、大きなウエイトを占めているのは、川口市教育委員会からお願いされている「若手教員育成」の仕事と「地元での活動」です。

若手教員育成の仕事とは、週2回、年間で70日間、2年目〜4年目までの教員を対象に、研究テーマに沿った授業が展開されているか、また学級経営、部活指導、生徒指導、保護者への対応、悩んだり困っていること等について指導・助言を行うことです。臨時的任用教員に対しては、更に教員採用試験に向けての論文・面接指導も行っております。

私自身、この仕事を仰せつかったから4年目に入っていますが、勤務日は朝5時過ぎには起き、6時10分には家を出るという日課になっています。その関係で前日も早寝・早起きをする習慣が身につく、「だらけがち」になる日常の改善にもなっております。また、勤務校までは、川口駅から歩いて約40分、家を出て帰宅するまで約一万歩あり、良い運動にもなっております。

中学校では、生徒が毎回気持ちの良い挨拶をしてくれるので、励みになっております。先生方には授業等で気付いたことを話したり、生徒からは元気

を貰ったりと、脳の活性化にもなり、たいへん充実しております。

次に地元での活動ですが、4月当初に年間200日は畑仕事をしようと目標を立て、実行しております。今では、農家支部長を経て、習志野市の農業振興・推進委員、農家総代を仰せつかっております。我が家は、祖父母の代まで専業農家で、ニンジン、ホウレンソウを中心に農協へ出荷していましたが、今は夫婦二人で、50種類以上の野菜を趣味で栽培しております。収穫時には、ご近所、親戚、障がい者団体等にお裾分けしております。過日農業新聞に、農業従事者の男性平均寿命が87歳、女性性は92歳という記事が載っていました。いかに農業が健康に良いか分かるかと思えます。皆さんも農業をしてみたいはどうでしょうか。

また市・町会行事では、防災訓練・ごみゼロ運動等、2か月に一度は活動をしており、また懇親会もあります。過日こんなことがありました。私が川口で仕事で、近所の方から電話があり、「今どこにいるの、雨が降ってきたよ。洗濯物が濡れてしまいますよ。」というのでした。よく災害時には「自助、共助、公助」と言われますが、いざという時は、ご近所(所)さんが一番頼りになるな、と実感しました。これからも地域との触れ合いを大切に、前向きに生きたいと思えます。

# —日々雑感—

## 盆栽に囲まれて

宮口 利政

定年退職して3年目になりました。現在は川口市教育委員会では日本語指導支援員をしています。教育研究所を拠点に、市内の小中学校で外国籍や帰国子女の児童生徒に日本語を教えながら、学校生活への適応を支援しています。

その傍ら、趣味で盆栽を育てています。盆栽と言っても、植木に毛の生えたようなもので、仕事の合間を見つけては剪定鋏を片手に、狭い庭に隙間なく並べてある植木棚の間を動き回って「チョコキ、チョコキ」しています。あくまでも、下手の横好きというレベルで、相当な数の樹種や本数を犠牲（枯らした）にしながら、今の環境（仕事の合間の世話程度）で生きられる樹種を試行錯誤で探しています。気が付けば小品から大型盆栽まで600鉢以上になってしまいました。俗に「盆栽は時間を買う」と言われています。盆栽は、実生や挿木から育てると満足して鑑賞できるようにするのに50〜60年（ちよつと飾る」という程度になるにも最低で20年は必要）かかります。その時間をお金で買い、すぐに鑑賞できるも

のを手に入れるということ。お小遣いの範囲内で楽しんでる身にとつては、高価な盆栽ばかりはとも持てません。演台に飾れるような盆栽もいくつかはありますが、そんな盆栽を眺めていると「自分の手で作ってみたい」という欲求に駆られてしまい、無謀にも残りの人生を顧みず、実生や挿木を試みるのです。小さな、とても人には見せられないようなものでも、可愛く思う気持ちは変わりありません。かといって、「〇〇盆栽園で指導を受けた」という経験もなく、盆栽雑誌の情報をもとに手探りの状態ですから、盆栽と呼べるものを一から手作りするとは夢のまた夢です。それでも実生や挿木から5年、10年と経た「寄せ」の鉢にせつせと挑戦しています。

一般に、「人は、人を愛し、樹を愛し、石を愛して死ぬ」と言われています。年齢を重ねるごとに、不変なものに憧れるということでしょうか。結婚して40年。今は二番目の「樹を愛し」の段階かな、と思っています。近頃、「石」に興味を持つている自分に気付き驚きました。そんな中、今年の夏に人生初の手術（幸い良性の腫瘍でした）を経験し、残りの人生に不安を感じました。そんな不安を吹き飛ばすように、今日も剪定鋏を手に、可愛い盆栽と向き合い、10年後、20年後の木姿に思いを馳せる日々です。

大貫海浜学園の昔と今  
川口市立大貫海浜学園  
副学園長 滝澤 榮 則

川口市立大貫海浜学園は、海辺の自然の中で集団宿泊生活を通して、きまりよい実践的態度と豊かな情操を養うことを目的に、今から77年前の昭和15年に開設されました。

戦時中は軍工場に転用された時期もありましたが、昭和22年から再開、当時は川口市内小中学校の虚弱児童生徒に保健生活を指導し、7〜8月は3泊4日で希望者を対象に水泳訓練を実施していたそうです。昭和37年から市内全6年生を対象に3泊4日、全額川口市費負担での実施となりました。昭和58年には現園舎完成、34年を経過しています。平成16年からは対象学年を5年生に変更しました。平成28年度からは日程を見直し、2泊3日となりました。また、それに伴い、夏季期間の熱中症を考慮し、7〜8月の実施を取り止めました。結果、暑い時期に体調を崩す児童が減少しました。また、学校での授業時数確保と教員の負担軽減にもつながっています。活動は、現在も東京湾観音へのハイキングをメインとして、学校が主体となり2日目に

行っています。震災の後、しばらく入れなかつた観音への拝観も行い、子どもたちは頭上からの眺めに歓声を上げています。

2日目の夜は恒例のキャンドルファイヤーです。ろうそくの炎を静かに見つめ、大貫最後の夜を過ごします。

また、漁村の見学や海辺の散策、砂の芸術や貝拾いなど、川口にはない海の豊かな自然を生かした体験を行っています。ただ、崖崩れの危険性があるため磯根崎には近づけなくなりました。

食事は、はかりめ（あなご）ご飯や煮魚、あらめ、アジフライなど、昔と変わらずおいしい地元料理が並びます。スイカも5月から出ます。食事は大好評です。ただ、活動を広げるため昼食は最終日もおにぎりとなり、人気の肉飯はなくなりました。

学園の職員は、私を含めて10名います。長らく管理人を勤めた塚清さんは退職しましたが、厨房の調理員など昔からの人も多く、一生の思い出作りに貢献しようと皆プロ意識に徹して仕事をしています。学校にいる時はほぼ最年長だった私が、現在は最年少となり可愛がってもらっています。

大貫海浜学園は、開設以来長い歴史と伝統を守り、決まりよい生活の中で充実した教育活動を展開してきました。これからも昔と変わることなく、児童の貴重な体験教育の場として、重要な役割を担っていきたく思います。なお、私は単身赴任です。怠惰にならないよう気を引き締めていきます。

# 豊かな読書活動の 推進をめざして

川口市立元郷南小学校

校長 菅原京子

本校は、「心を育て、学びをつくる読書活動の推進」を読書活動のキャッチフレーズとして、さまざまな読書活動、学校図書館指導を行ってきました。このたび、その成果が認められ平成29年度「子供の読書活動優秀実践校」として、文部科学大臣表彰をいただきました。

ここでは、本校の読書活動に関する実践について紹介します。

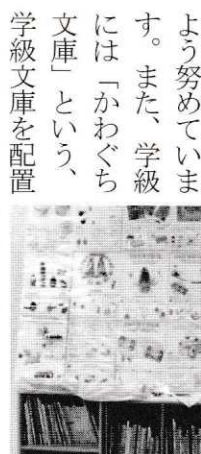
## 1 資料の電子化（バーコード化）

平成24年度より、PTAの協力を得て貸し出し方法のバーコード化を実施しました。このことにより、貸し出し手続きが迅速になった上、児童個々の読書傾向の把握ができるようになりました。また、蔵書のデータを蓄積することにより、多岐にわたる学習指導が可能になりました。

## 2 校内読書環境の整備

学校図書館の整備はもろろんのことですが、校内ワークスペースを活用して、学年の発達段階に合わせた読書コーナーを設置しています。「本の広場」として『なかよしとしょしょ』の設置、教科と連動した期間限定の本の展示な

どがその例です。学校図書館以外にも、子供達の身近に本を置くよう努めています。また、学級には「かわぐち文庫」という、学級文庫を配置



しています。これは、図書委員会の児童が、定期的に整理をし、いろいろな本が読めるように、順番に回しているものです。「かわぐち文庫」の本は、川口市の中央図書館との連携（読書による人づくり運動の七百冊の活用）を行いながら揃えているもので、毎週金曜日の朝読書の時間に、おおいに活用しています。

## 3 図書ボランティアの活動

本校では、保護者による読み聞かせボランティアの活動が盛んです。毎週金曜日の読書の時間を使い、月に1、2回程度、読み聞かせをしていただいています。継続

した活動により、低学年の児童は、長い話でも集中して聞くことができるようになりました。また、読み聞かせで紹介した本は学校



図書館でも貸し出せるようにし、本への関心が高まるような工夫をしています。その結果、聞いた話を自分でも読もうとする児童が増えたり、昔話や戦争の読み聞かせから、国語の学習の導入がしやすくなったりするなど、さまざまな良い効果が出ています。

今年度より、新たな取組として、パネリアターも実施しました。「干支の話」「パパ、お月さまとって」「ぐりとぐら」など、子供達が好んでいる作品だったこともあり、大盛況でした。これからも、図書ボランティアとの連携を充実させながら、本好きの児童を増やしていきたいと考えています。

## 4 学校図書館司書の活動

昨年度より、学校図書館司書が配置されました。このことにより、学校図書館の環境や、読書活動が更にパワーアップされました。学校図書館司書の活動の主なもの、①図書のガイダンス、読み聞かせ、ブックトークなど

②教師用の教材や資料の収集③読書環境の整備の一つとして、季節を体感できるような掲示物の作成④環境問題や福祉関係など課題



別の本の配置⑤市や県の広報誌、新聞の切抜き、パンフレットやリーフレットの収集。この他にも図書委員会への支援もしています。学校図書館司書の配置により、より一層充実した読書環境が整うようになりました。

## おわりに

子供達の活字離れが叫ばれている中、今の環境を有効に活用しながら、これからも「豊かな読書活動の推進」に努めていきたいと考えています。

## 編集後記

昭和から平成、そして来年5月1日から新元号になる。一つの節目、新しい時代を迎える。新指導要領に基づく教育の展開と重なり、充実した教育の展開が求められる。

総則では、「…家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。」としている。

地域の活動である「放課後子供教室」は、川口市では20校程度の設置だという。学びたいと思う子が気軽に通える場づくりを地域で進め、地域からも学校を支援したい。

昭和から平成、そして、新しい時代につながる「かけはし」、不易と流行を意識して伝えたい。(田代博人)